

戦略的芸術文化創造推進事業
5年成果報告書

団体名称	株式会社サイ
担当者連絡先	(担当部署) 制作部 (氏名) 穂坂裕美 (電話) 03-3385-2066 (アドレス) sai@kikh.com

1. 事業内容

課題	課題 ii 地方や離島・へき地等において、優れた文化芸術活動を鑑賞・参画する機会と社会的価値等を創出する取組
事業名	「注文の多い料理店」九州ツアー
事業期間	平成30年7月1日 ~ 令和5年3月31日 ※契約期間を記載
	<p>【平成30年度】</p> <p>■肝付町（ワークショップ・公演） 場所：肝付町文化センターホール 大ホール（肝付町） 演出家・小池博史による身体表現ワークショップ(7月8日～10日)、「注文の多い料理店」公演(仕込み・リハーサル8月3日、公演4日、事後レクチャー5日)を実施。本公演の内容を踏まえた事後レクチャーは照明家、演出家、舞台監督、制作が講師を務めて実施された。</p> <p>■与論町（ワークショップ・公演） 場所：砂美地来館（与論町） 演出家・小池博史による身体表現ワークショップ(7月4日～6日)、「注文の多い料理店」公演(仕込み・リハーサル8月6日、公演7日、事後レクチャー8日)を実施。本公演の内容を踏まえた事後レクチャーは照明家、演出家、舞台監督、制作が講師を務めて実施された。</p> <p>【平成31年度】</p> <p>■技術スタッフワークショップ 昨年度事業において課題となっていた「地域での文化芸術の担い手が少ない」といった点に対して、活動を支える舞台技術者の育成を目的として行った。東京での弊社主催公演（「新・三人姉妹」三鷹市芸術文化センター）に合わせ、照明・音響・舞台・制作の舞台技術に関するワークショップを実施。各地域から1名が東京へ赴き、公演前後のレクチャーと現場での実践を通して技術を学んだ。レクチャーを5月14日、18日、現場研修を5月15～17日に実施。与論町から東京のワークショップに参加したひとは、その後地域で自主的に立ち上げた島民劇団において演出を担当し、地域住民とともにひとつの作品を作り上げ、発表を行うといった活動に結びついている。その劇団の活動は南日日新聞の元旦版で大々的に取り上げられた。 参加者：【与論町】沖隆寿 【徳之島町】大楽大聞 【肝付町】松園幸人</p> <p>■与論町（ワークショップ・公演） 場所：砂美地来館 演出家・小池博史による身体表現ワークショップ(5月31日～6月3日)、「新・三人姉妹」公演(仕込み・リハーサル10月29日、公演30日、事後レクチャー31日)を実施。5月ワークショップではスロームーブメントという小池博史のメソッドを中心とした内容に加え、島民劇団オリジナル作品への演出指導も行った。地域の伝承に基づいたオリジナルダンスシアター作品が創作され、参加住民にとって地域文化の継承と身体表現の体験機会となった。本公演の内容を踏まえた事後レクチャーは照明家、演出家、舞台監督、制作が講師を務めて実施された。</p> <p>■徳之島町（ワークショップ・公演） 場所：徳之島文化会館（徳之島町） 演出家・小池博史による身体表現ワークショップ(5月27日～30日)と「注文の多い料理店」公演(仕込み・リハーサル11月15日、公演16日、事後レクチャー17日)を実施。5月ワークショップでは身体表現の体験機会拡大を目的とし、誰でも参加可能な「スロームーブメント」を用いた小作品創作を行った。事後レクチャーは照明家、演出家、舞台監督、制作が講師を務め、実施された。</p> <p>■肝付町（ワークショップ・公演） 場所：肝付町文化センターホール 大ホール 演出家・小池博史による身体表現ワークショップ(5月23日～26日)と「新・三人姉妹」公演(仕込み・リハーサル10月25日、公演26日、事後レクチャー27日)を実施。5月ワークショップでは身体表現の体験機会拡大を目的とし、誰でも参加可能な「スロームーブメント」を用いた小作品創作を行った。事後レクチャーは照明家、演出家、舞台監督、制作が講師を務め、実施された。</p> <p>【令和2年度】</p> <p>■与論町・徳之島町・肝付町合同 オンラインセミナー／シンポジウム 実施日：令和2年12月4日～5日 場所：与論町主催者自宅 × 徳之島町文化会館 × 肝付町役場 × ZOOM × 都内株式会社サイ事務所 実施体制：沖 隆寿、与論劇団「野生の島人」メンバー、徳之島町文化会館職員、肝付町担当者、オンラインセミナー講師、小池博史 現地でのワークショップとシンポジウムがコロナウイルス感染拡大の影響のため実施できなかったため、事業に参加している3つの地域が合同で参加できるセミナーをオンラインで開催した。そのため、お互いの課題を学び、情報交換と関係性を深めることができた。与論島の事業担当者は徳之島町文化会館との連携を深め、独自で立ち上がった島民劇団のオリジナル作品を徳之島町文化会館で再演するための動きを作るきっかけとなった。 12/4（金） 19:30 - 21:30：今井良治 × 小池博史 テーマ：地域づくりとプロデュース 12/5（土） 10:00 - 12:00：野村政之 × 小池博史 テーマ：文化芸術活動について 12/5（土） 13:00 - 14:30 津村禮次郎 × 小池博史 テーマ：宮沢賢治シリーズ-2021年1月新・風の又三郎鹿児島ツアーに向けて</p> <p>■与論町（演出ワークショップ） 実施日：令和3年3月3日～7日 場所：砂美地来館、朝戸公民館（与論町） 講師：小池博史 2019年度のWSを受けた参加者が立ち上げた与論島民劇団の第2回公演「春が来た」の演出指導を行なった。小池が劇団の稽古に参加し、島民劇団のオリジナル作品への演出指導を行ない、公演は劇団が主催となって3月7日に行われた。</p> <p>■徳之島町（公演） 実施日：令和3年1月22日～23日 場所：徳之島町文化会館 「風野又三郎」公演（仕込み1月22日、ゲネプロ・公演・アフタートーク1月23日）を実施。 自然と人間の間接性をテーマにした宮沢賢治の「風野又三郎」が原作となる作品は島民の間で評判が良く、昨年度の公演のリピーターの観客も多かった。コロナウイルス感染拡大のため、宣伝活動が思い通りできなかったが、会館の券売での工夫など昨年の成果があったため、予想以上に集客ができた。南海日々新聞で事後記事も掲載された。</p> <p>■肝付町（オンライン上映会） 実施日：令和3年3月1日～26日 場所：オンライン 「風野又三郎」徳之島町文化会館収録公演 コロナ感染拡大のため、肝付町での公演は実施できず、現地での公演は中止となった。徳之島町での公演を収録し、後日担当者と事業の関係者が鑑賞をした。今後の公演の演目についての相談を始めている。</p>

【令和3年度】

オンライン講座

実施日：令和3年6月4日

場所：与論町主催者自宅×徳之島町文化会館×肝付町文化センター×株式会社サイ（Zoom）

参加者：沖隆寿、実島一仁、丸野清、松園幸人、田中綾乃、小池博史、黒田麻理恵、村田真理名

内容：

ワークショップを開催する与論町、肝付町、徳之島町の3つの地域と連携し、2021年度の課題を明確にした。

◇与論島：島劇団「野生の島人」の活動をより活発化させたいという意見があったため、島劇団中心のワークショップやレクチャーを実施することとなった。

◇徳之島：町民劇を実施することを目標に、演出面のワークショップやレクチャーを実施することとなった。

◇肝付町：2020年度は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されたため、館の持つ照明や音響機材のプロの使い方や、演出家やレクチャーを実施することとなった。

演出・制作ワークショップ

本事業での研修・鑑賞機会をより充実したものにするため、弊社の演出家・小池博史が演出家を務める「完全版マハーバーラタ～愛の章/嵐の章」の上演時に、技術・制作等の現場研修を実施した。徳之島町と肝付町は、新型コロナウイルス感染症のピークでの実施だったため、町から参加を見送ってほしいとの要請があり不参加となった。

実施日：2021年8月18日～21日

実地研修・レクチャー会場：なかのZERO大ホール（東京都中野区）

参加者：沖隆寿（与論町）

日程詳細：

◇18日 制作講座（講師：穂坂裕美）、演出講座（講師：小池博史）、「完全版マハーバーラタ」稽古見学

◇19日 仕込み参加、制作講座（講師：穂坂裕美）、演出講座（講師：小池博史）、明かり合わせ見学

◇20日 ゲネプロ・公演見学、スタッフ手伝い、演出講座（講師：小池博史）

◇21日 公演見学、スタッフ手伝い

身体表現ワークショップ&レクチャー総合講座

■徳之島

実施日：10月26日（火）～28日（木）

場所：徳之島町文化会館、きのこにじいろクラブ

参加者：キノコにじいろクラブワークショップ：30名、ダンスワークショップ：15名

■与論町

実施日：10月28日（金）～11月2日（火）

場所：琴平神社（与論町）

参加者：ワークショップ：15名、シンポジウム：45名

公演／オンライン上映会「夢七夜～ピーマとドラウパディの夢」

■与論町（ワークショップ・公演）

実施日：1月24日～27日

場所：砂美地来館

演出家・小池博史による演技レクチャーと身体表現ワークショップ(1月24日)と「夢七夜～ピーマとドラウパディの夢」公演（仕込み・リハーサル1月25日、公演&演出家トーク26日、演出ワークショップ、与論町長、教育委員長対談27日）を実施。

■徳之島町（オンライン上映会&アフタートーク・演出ワークショップ）

実施日：2月28日

場所：徳之島町文化会館×株式会社サイ（Zoom）

「夢七夜～ピーマとドラウパディの夢」茅野公演映像上映（1月28日）と演出家 小池博史アフタートークおよび演出ワークショップを実施。

【令和4年度】

沖縄返還セレモニー&シンポジウム（与論町）

実施日：4月28日～29日

場所：琴平神社

視察：小池博史

内容・スケジュール：

28日 沖縄返還セレモニー&野生の島人劇団パフォーマンス

内容：本事業を通して旗揚げした島劇団による公演を沖縄復帰50周年記念事業の一環として行う。

合同芸術祭に向けた演出監修・再構築

■与論町（演出監修・再構築①②③&島劇団公演）

実施日：4月29日～5月1日、6月22日～25日、10月15日～16日、21日～22日（仕込み）

単独公演：野生の島人「波打ち際の島人たち」公演（10月23日）

場所：鹿児島県大島郡与論町 砂美地来館

演出監修・指導：小池博史

照明：富山貴之

内容：4月28日に島劇団が行ったパフォーマンスを振り返り、10月の合同芸術祭に向けて演出監修・修正を行う。10月23日の公演に向けて稽古、照明の確認を行う。

■徳之島町（演出監修・再構築①②）

実施日：5月1日～3日、6月26日～27日、10月14日、24日～28日（仕込み）

場所：徳之島町文化会館

演出監修・指導：小池博史

内容：徳之島町民が集って結成した島劇団の演出監修・修正を10月の合同芸術祭に向けて行う。

■与論町・徳之島町（合同芸術祭・アフタートーク）

実施日：10月29日、30日

場所：徳之島町文化会館

演出監修・指導：小池博史

照明：富山貴之

参加団体：

（徳之島）島劇団「海と大地」／演目：先祖様（うやぼうがなし）の紡ぎ唄（演出・脚本：大樂大開）

（与論島）島劇団「野生の島人」／演目：波打ち際の島人たち（演出・脚本：沖隆寿）

アフタートーク30日の公演後に行い、他地域との合同事業、・鹿児島県離島における文化芸術活動について小池博史、徳之島文化会館館長の実島一仁、野生の島人代表の沖隆寿が登壇した。

■肝付町

音響ワークショップ

実施日：8月10日（オンライン）

内容：11月に行われる総合文化祭に向けてオンラインで音響WSを行う。

講師：深澤秀一

照明ワークショップ

実施日：10月18日（オンライン）

内容：11月に行われる総合文化祭に向けてオンラインで照明WSを行う。

講師：富山貴之

制作ワークショップ

実施日：12月13日（オンライン）

内容：来年度からの事業に向けて制作面のレクチャーをオンラインで行う。

講師：穂坂裕美

創作ワークショップ公演・アフタートーク（与論島）

実施日：3月18日～27日（仕込み）

場所：砂美地来館

演出・指導：小池博史

照明：富山貴之

出演者：島劇団「野生の島人」、下町兄弟（ラッパー、パーカッション）、櫻井麻樹（俳優）、武蔵野美術大学空間演出デザイン学科小池ゼミ生

美術：中谷萌、武蔵野美術大学空間演出デザイン学科小池ゼミ生

内容：全10日間によるクリエイションワークショップを島劇団にプロのパフォーマー、音楽家、武蔵野美術大学の学生が参加して行う。

公演：「またここで会いましょう」（3月28日）

アフタートークは公演後に行い、離島における文化芸術と今後について、小池博史、沖隆寿が登壇した。

※事業年ごとの内容を記載。

※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。

事業内容

URL

※成果報告の内容が分かるページを記載

2. 事業の目標・成果

1 公演数・観客数等定量的な成果について 各年度の実績及び次年度に向けての取組みについて記載。				
初年度における 5年後目標	(単位：)	H30	H31 (R1)	R2
単年度目標		肝付・与論の2ヶ所で1回ずつ「注文の多い料理店」公演を実施。肝付・与論のべ公演動員数の500名を目標とする。(有料動員、招待、未就学児鑑賞含む)また、肝付・与論のべ公演動員数のうち、児童・生徒の来場を全入場者数の4割にする。(有料動員と未就学児鑑賞含む)	肝付・与論の2ヶ所で1回ずつ「新・三人姉妹」公演を行い、徳之島で1回「注文の多い料理店」公演を実施。肝付・与論・徳之島の公演動員数をそれぞれ大人150名、子ども50名、合計600名の動員を目指す。(有料動員、招待、未就学児鑑賞含む)	肝付・与論・徳之島の3ヶ所で1回ずつ「風野又三郎」公演を行い、肝付・与論の公演動員数をそれぞれ大人130名、子ども50名、徳之島の公演動員数を大人300名、子ども150名(有料動員、招待、未就学児鑑賞含む)、合計810名の動員を目指す。
実績		肝付公演で172名、与論公演で204名の動員となり、目標数値に至らなかったが、児童・生徒の割合は、肝付で75名、与論で81名の動員となり、目標値に達した。童話「注文の多い料理店」を題材としていたことに加え、現地の教育委員会の協力(町内の全生徒へのチラシ配布、学校内のポスター掲示)もあり、多くの児童・生徒に公演を周知できたと考える。	肝付公演は、大人106名、子ども15名(合計121名)、与論公演は、大人80名、子ども29名(合計109名)、徳之島公演は、大人276名、子ども174名(合計450名)の動員となった。肝付・与論は目標値に達しなかったが、徳之島においては、普段から文化活動を行っている文化会館が主体となっていたため、事業初年度だったが目標の集客人数をクリアすることができた。	コロナウイルス感染拡大のため、肝付・与論での公演が行えず、徳之島での公演のみとなった。自然と人間の関係性をテーマにした宮沢賢治の「風野又三郎」が原作となる作品は徳之島の島民の間で評判が良く、昨年度の公演のリピーターの観客も多かった。コロナウイルス感染拡大のため、宣伝活動が思い通りできなかったが、会館の券売での工夫など昨年の成果があったため、予想以上に集客ができた。南海日々新聞で事後記事も掲載された。公演集客数は、大人117名、子ども21名 合計138名。肝付町では、徳之島町での公演を収録し、後日担当者と事業の関係者が鑑賞をした。今後の公演の演目についての相談を行った。
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み		H31年度に向けて…引き続き、学校や教育施設に焦点を充てポスター掲示や呼びかけなどの広報活動を重視する。券売数について、高齢化の進む地域で高い年齢層の人々を呼び込むにはどの媒体・宣伝素材が効果的か、前もって現地スタッフとの協議を重ねる必要がある。肝付では学校が夏期休暇中の土日の集客が難しく、平日が良いとの声が上がった。また、与論の文化庁委託事業を醸した宣伝カーの反響をみるに、文化庁の認可したハイレベルな作品だということを出した広報を行うことも今後の鍵となるのではないかと考える。	R2年度に向けて…チーフホフの三人姉妹をもとにした「新・三人姉妹」は、宮沢賢治の作品よりも知名度が低く、集客が難しかったので、公演作品を検討する必要がある。また、チラシやポスターのデザインをわかりやすく工夫することで、公演作品への興味を喚起させる必要があると感じた。	R3年度以降に向けて…次年度は、3つの地域での公演を行うことが目標ではあるが、コロナウイルスの影響が長引くことを考えたプログラムも考える必要がある。また、弊社の公演をもとに各地域住民によるオリジナルダンスシアター作品の形象化、そして地域コミュニティの活性化が促せるような取組を行っていく。
(単位：)		R3	R4	達成率
単年度目標		肝付・与論・徳之島の3ヶ所で1回ずつ「夢七夜〜ピーマとドラウパディの夢」公演を行い、肝付・与論の公演動員数をそれぞれ大人130名、子ども50名、徳之島の公演動員数を大人300名、子ども150名(有料動員、招待、未就学児鑑賞含む)、合計810名の動員を目指す。	10月に徳之島町文化会館にて、徳之島町文化会館と与論町劇団「野生の島人」が共同主催で行う「芸術祭」を開催する。芸術祭では、徳之島の町民、島劇団がそれぞれの地元で根付いた芸術・文化を題材とした舞台芸術作品を公演する。1公演298名の来場を目標とする。また、R5年2月に開催する与論島創作ワークショップは、10月与論公演の目標人数を踏まえて、そこから約30%増加した150名の動員を目標とする。	95%
実績		コロナウイルス感染拡大のため、肝付・徳之島での公演が行えず、与論での公演のみとなった。引き続き、コロナウイルス感染拡大のため、宣伝活動が思い通りできず、年配のお客さんが会場に集まりにくい状況にあり、公演集客は大人40名 子ども30名、計70名だった。公演後の演出ワークショップには15名が参加。徳之島では現地の公演ができない代わりに、与論での公演を収録し、オンライン上映会と演出ワークショップを行い、15名が参加した。	徳之島と与論の合同演劇祭は2日間にわたり2公演行われた。2公演ともに満席の300名(コロナ対策でつばし席あり)、計600名の観客が訪れた。公演には徳之島の町長、副町長もサプライズ出演し、会場は大いに盛り上がった。徳之島唯一の劇場である徳之島町文化会館が主体の館として行ったため、町民が主体となった公演を町全体に広報することが可能となった。発表に向けては、小池博史が3回に亘って現地に行き、演出の監修や再構築を行う。公演前には照明家も現地に長期滞在し、各地で技術面の中心になる町民に直接レクチャーを行い、実際に照明家が本番で行う動きの見学を行った。また、3月に行われた与論島創作ワークショップ公演では183名の観客を動員した。	
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み		R4年度に向けて…事業最終年となる次年度は、各地域の運営団体によるオリジナルダンスシアター作品の完成並びに上演を目標とする。また、事業をさらに発展させ、地域に根付かせていくために、地元プロデューサーや地域住民と積極的に交流を持ち、住民団体や商店街とのコラボレーションなど様々な人々が協同し、事業が盛り上げられるよう働きかけ、資金獲得の流れを作り出していく。	R5年度以降に向けて…合同芸術祭の開催によりR5年度以降も継続的に自主公演を行う土台作りを行ったので、今後、2か所の芸術団体が共同で主催事業を行う際の資金的な可能性の広がりを高めていく。また、本芸術祭をきっかけにR5年度以降の独立した公演に向けて、町民に活動を周知する広報ネットワークを広げていく。	

<p>2 <課題解決>における成果について 「課題 ii 地方や離島・へき地等において、優れた文化芸術活動を鑑賞・参画する機会と社会的価値等を創出する取組」について、各年度において課題解決するための取組目標及び事業実施による成果・変化、次年度に向けての取組を記載。</p>					
初年度における5年後目標と現状	H30	H31(R1)	R2		
単年度目標	<p>肝付・与論での公演によって舞台への興味を喚起させると同時に、現地のスタッフに舞台作品をオーガナイズする際のノウハウを伝え、地方における舞台芸術活動の環境を整えていく。また、本公演の前にワークショップを実施。、普段プロの公演に足を運ぶことの少ない観客が公演に親しんでもらえるよう、地域の交流館や教育機関においてのべ100名の中学生～80歳の住民に対し、公演の数か月前に身体表現ワークショップを実施。</p>	<p>与論町・肝付町では2年目の実施となるが、今年度はワークショッププログラムに重点を置き、地域オリジナルのダンスシアター作品の創作や、照明・音響等の初歩技術の習得が可能なプログラムを組む。技術習得に関しては、操作方法を教えることはもちろん、公演現場を踏むことで技術定着や次年度以降の具体的な課題を発見できるよう実施する。 事業1年目となる徳之島町では、本公演と身体表現に関する初歩的なワークショップを主なプログラムとし、ハイレベルな舞台芸術作品の鑑賞機会拡大をはかる。地元プロデューサーや自治体をはじめとする地域住民との積極的な交流を持ち、与論町・肝付町と同様の目標に向け住民自らが動いていけるような道筋を示しながら次年度以降に向けた動きを作り出す。</p>	<p>与論町・肝付町ではさらに具体的なワークショッププログラムに重点を置きながら、東京で小池博史自身の39年に亘る演出家としての集大成作品「完全版マハーバーラタ」公演に触れてもらい、さまざまな可能性が舞台にはあることを認識してもらおう。地域オリジナルのダンスシアター作品の創作や、照明・音響等の初歩技術の習得が可能なプログラムを組む。技術習得に関しては、操作方法を教えることはもちろん、公演現場を踏むことで技術定着や次年度以降の具体的な課題を発見できるよう実施する。 事業2年目となる徳之島町では、本公演と身体表現に関するワークショップを行いながら、彼らの舞台作品に対してのアドバイスをし、かつハイレベルな舞台芸術作品の鑑賞機会を提示し、450人以上を集めた事業初年度の動員を維持、あるいはさらに超えられるようにする。肝付町、与論町でも公演に来る観客数を1割伸ばすことを目標とする。 総じて地元プロデューサーや地域住民との積極的な交流を持ち、目標に向け住民自らが動いていけるような道筋を示しながら次年度以降に向けた動きを作り出す。また、有効的な事業継続のため、地元住民団体、商店街とのコラボレーションなど様々な人々が協同し、事業が盛り上げられるよう働きかけていく。</p>		
実績	<p>公演時に、公演帯同のスタッフが現地のスタッフに舞台作品をオーガナイズする際のノウハウを伝え、制作・技術面での指導を行った。また、本公演の前にワークショップを実施。「スロームーメント」のメソッドを用い、ゆっくりとした動きによって集中力を磨き、身体への知覚を強化しながら舞台作品を作るという年齢・性別・障害等にかかわらず誰でも参加可能なプログラムを実施。参加人数は肝付で4名、与論で7名。目標値には至らなかったが、参加者より「演技、ダンスの経験がほぼなかったが、スロームーメントメソッドのもと障害のありなしを超えた表現活動ができた。またWSがあればぜひ参加したい」との声が寄せられており、将来の継続的なWSの需要の高まりを感じた。</p>	<p>舞台技術者の育成を目的として、東京での弊社主催公演（「新・三人姉妹」三鷹市芸術文化センター）に合わせ、照明・音響・舞台・制作の舞台技術に関するワークショップを実施。各地域から名が東京へ赴き、公演前後のレクチャーと現場での実践を通して技術を学んだ。 与論町から東京のワークショップに参加したひとは、その後地域で自主的に立ち上げた島民劇団において演出を担当し、地域住民とともにひとつの作品を作り上げ、発表を行うといった活動に結びついている。その劇団の活動は南日新聞の元旦版で取り上げられた。 また、与論島で公演前に行った小池博史のワークショップでは、島民劇団オリジナル作品への演出指導も行った。地域の伝承に基づいたオリジナルダンスシアター作品が創作され、参加住民にとって地域文化の継承と身体表現の体験機会となった。各地のワークショップ参加者は肝付7名、与論10名、徳之島7名。</p>	<p>現地でワークショップとシンポジウムがコロナウイルス感染拡大の影響のため実施できなかったため、事業に参加している3つの地域が合同で参加できるセミナーをオンラインで開催した。そのため、お互いの課題を学び、情報交換と関係性を深めることができた。与論島の事業担当者は徳之島町文化会館との連携を深め、独自で立ち上がった島民劇団のオリジナル作品を徳之島町文化会館で再演するための動きを作ることになった。 また、与論島では2019年度のワークショップを受けた参加者が立ち上げた与論島民劇団の第2回公演「春が来た」の演出指導を行なった。小池が劇団の稽古に参加し、島民劇団のオリジナル作品への演出指導を行ない、公演は劇団が主催となって3月7日に行われた。参加者は20名。</p>		
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	<p>H31年度に向けて… 舞台芸術に従事したことの少ない現地の人々と芸術団体が広報や手配を遠隔で行うにあたり、細かな連絡に時間を取られ、各地のオーガナイザーが宣伝方法を考える時間、宣伝に割く時間が不足したことが反省点となる。従事人数の選定や人員の手配を事業の始まる数か月前からしっかりと行うべきであると感じた。今後は、公演やワークショップをメインとしながらも、現地の受け入れ体制やテクニカル面に対してのコミットメントを深くし、年に数回現地入りする等の意識で場づくりを共に行う必要があると考える。</p>	<p>R2年度に向けて… 各地で舞台作品上演による観客育成のほか、技術スタッフの育成も進めてきたので、次年度以降も引き続き、これらの育成を進める。また、ワークショップにも力を入れ、身体表現の体験機会拡大を目的とした「スロームーメント」を用いた小作品創作を積極的に行うことで、各地方で芸術文化の担い手となる人々を育成していきたい。</p>	<p>R4年度に向けて… 次年度は、各地域のメンバーが東京のプロの公演での技術ワークショッププログラムに参加してもらい、各地域での活動の担い手を増やし、継続した活動を行なっていけるよう計ろう。技術スキルの習得により、将来的にこれまで外注に頼っていた技術スタッフ部分の人材不足の解消及び経費削減も見込まれ、より公演を実施しやすくなる環境を整える。</p>		
	R3	R4	達成率		
単年度目標	<p>各地から核となる人物を東京に招き、小池博史自身の40年に亘る演出家としての集大成作品「完全版マハーバーラタ」公演の仕込み、本番に参加してもらい、ワークショップ、レクチャーを実施する。同時に海外各国のトップの演者や演奏家、高度な美術、照明に触れ、舞台芸術の多大な可能性を肌で感じてもらう。また、3地域共通してzoomを使った地域域異のためのレクチャーを二度実施。 与論では地域オリジナルのダンスシアターの団体「野生の島人」が育っているため、作品創作のアドバイスや、照明、音響、舞台監督、演出、制作の初歩～中程度の技術の習得が可能となるべくプログラムを組む。肝付町は地域芸術である「なごしどん」の舞台化の際には技術を学べるようなプログラムを作る。徳之島は本公演やワークショップと同時に技術指導を行う。作品創作に関して熱心なので、舞台制作に対してのアドバイスをし、ハイレベルな舞台芸術作品の鑑賞機会を提示し、市民の文化的生活の向上のための舞台芸術公演の鑑賞という文化を根付かせる。</p>	<p>徳之島は町民から、演出、脚本、出演、音楽、制作の希望者を募り、町民自らの作品の創作を行ったうえで、小池による演出監修、再構築、プロの照明家を入れて最終調整を行い、それを合同芸術祭にて上演する。徳之島の伝統を題材にした脚本にし、徳之島の特色を生かした作品にする。徳之島には歴史に関するレクチャーや指導を行う人がいないため、徳之島の伝統、特徴、言い伝え等のリサーチを町民から徹底的に行い、演出に活かせるような歴史的情報の収集から始める。 与論では5月に与論島琴平神社にて、沖縄復帰50周年を記念した「沖縄返還セレモニー」を国頭県と与論町が連携して開催する。島劇団はこれまでの与論町や自然を題材にした公演活動が目玉として、セレモニー内のひとつとして公演の依頼があり、小池が演出の視察・監修・修正を行う。セレモニー翌日には、与論副町長、教育委員会、小池によるシンポジウムを実施し、役場と劇団の関係性をより深め、10月の与論公演や、2023年以降の島劇団の活動に対する町側からの継続的支援の実現に向けた関係構築を図る。島劇団が創作した作品は、小池による演出監修・再構築、プロの照明家を入れて再構築し、完成となる。公演は、合同芸術祭と、芸術祭に先立つ10月23日に与論町にて開催される予定である。また、2023年2月には島劇団と、プロとして活動するパフォーマー・音楽家・照明家と共同制作で創作を行うことが決まっている。小池の演出により、約2週間で作品を制作・発表し、プロが作品を創り上げる過程を身近に感じ、共に参加してもらおう。 肝付では照明、音響、制作の技術ワークショップを行う。11月に開催する総合文化祭に向けてプロの音響家、照明家のレクチャーを実施する。音響家、照明家は公演本番の動きを参加者に見学してもらい、肝付町の町民が文化祭で成果を発揮できるようにする。文化祭後には制作面のワークショップを行う。</p>	<p>95%</p>		
実績	<p>本事業での研修・鑑賞機会をより充実したものにするため、「完全版マハーバーラタ」の上演時に、技術・制作等の現場研修を実施した。徳之島と肝付はコロナウイルス感染症のピークでの実施だったため、町から参加を見送ってほしいとの要請があり不参加となった。 また各地域の要望に応じて以下のようなオンライン講座を行った。 与論島：島劇団「野生の島人」の活動をより活発化させたいという意見があったため、島劇団中心のワークショップやレクチャーを実施。 徳之島：町民劇を実施することを目標に、演出面のワークショップやレクチャーを実施。肝付町：2020年度は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されたため、館の持つ照明や音響機材のプロの使い方や、演出家やレクチャーを実施。 また徳之島では児童福祉施設でのワークショップを行い、30名が参加。一般のダンスワークショップでは15名が参加した。与論では、琴平神社でのワークショップに15名が参加、シンポジウムには45名が参加した。</p>	<p>徳之島町は、町唯一の劇場である徳之島町文化会館が中心となり、町民が芸術に触れ、自分たちの身体性への発見を促す活動を続け、2022年に島劇団「海と大地」が発足し、合同芸術祭の開催へとつながった。 与論では、2019年に発足した島劇団「野生の島人」が合同芸術祭を経て、3月には5年間の集大成となる公演発表を行った。この公演では、小池の演出により、島劇団と、東京を拠点とするプロのパフォーマー・音楽家・照明家、そして武蔵野美術大学の学生が約2週間わたる共同での作品制作を経て、発表に向かった。 肝付町では引き続き、コロナの影響によって現地で活動が行えなかったが、オンラインにて照明、音響、制作の技術ワークショップを行った。</p>			
各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	<p>R4年度に向けて… 各地の現地プロデューサーからは若い層の伝統文化に対する興味・関心の低さから新しい担い手が育ちにくく、活動の後継者不足により文化活動の存続に苦慮しているとの課題が挙げられた。そこで、事業を通して「文化」「身体表現」等に興味を持ってもらう機会を公演やワークショップという形で提供しながら、地域の伝承を引用した作品創作を現代的な身体表現と組み合わせる方向性を作り、地域の伝統をより受け入れられやすい形で若い世代に伝えていくことをねらう。そこから地域コミュニティの繋がりを強固にし、自立した公演制作から自主性を持った地域活性化に繋げていく。</p>	<p>R5年度以降に向けて… 徳之島では、島劇団「海と大地」の活動を彼ら自身が地域に根ざした舞台作品をプロデュースし、地域住民へ舞台芸術を継続して提供できる状態にすること、またその作品の質を高めていく。 与論では島劇団「野生の島人」が、地域に伝承される思想を元に演劇的ダンス作品を制作し、それを地域住民の手で上演を行う組織を立ち上げ、毎年の上演を通して次の世代へ伝承を繋いでいく。 肝付では、今後地域住民のみで文化センターが持つ資材を有効活用することができるようにし、運営ノウハウを身につけることで、プロフェッショナル公演団体の招へい実施を可能とする制作団体を立ち上げていく。</p>	<p>(達成率の根拠) 肝付に関しては新型コロナウイルスの危機感から、2021年度以降、現地で事業を行うことができなかったが、与論と徳之島では、本事業の取組の中から各地域固有の劇団が誕生。当初、予想もしていなかった各地域での積極的な芸術文化への取組みに、弊社も大きな刺激を受けた。 また作品の上演のみならず、身体ワークショップや、舞台運営に関するレクチャーを複数年に渡って行ってきたことで、観客の育成だけでなく、町の文化芸術の核となる人々の育成を行うこともできた。</p>		

3 戦略的芸術文化創造推進事業における課題解決の他に、事業を実施する中で見えた成果について			
(1) 成果内容		(2) 今後、成果を生かせる事業や取組	
<p>子どもに向けたワークショップに関して、与論のオーガナイザーである沖氏が、ワークショップ中の児童を見て「この子の可能性と故郷である島の未来の枝葉を見せてもらった。」と報告書の中で記していた。また、徳之島での児童福祉施設でのワークショップでも、施設の方から「子どもたちがそれぞれに自分の殻を破って表現していた」という報告をいただいた。公演鑑賞という形だけではなく、ワークショップ事業を通じて、子どもたちが身体と心を自由に解き放ち、芸術文化という自己の開放へ向かう道筋を作ることができた。</p> <p>鹿児島島の3つの地域と東京の間での5年間の交流事業の中で、東京から各地域へ公演やワークショップ、レクチャーなどでの滞在した人々が、その地域の魅力に惚れこみ、事業を超えた交流が生み出されていった。特に、最終年度であるR4年度の事業では、与論の創作ワークショップに東京からプロのパフォーマー、音楽家、武蔵野美術大学の学生が計14名が加わった。参加者は与論への興味がつきず、公演終了後も与論のメンバーとの交流を行っており、相互のエネルギーを交歓し続けている。</p> <p>また、特に与論や徳之島では、各地域に根付く唄や音楽の力が作品の中に色濃く反映されており、作品の中で生まれた音楽は、唯一無二のオリジナリティがあり、観客の心を大きく動かし、忘れがたい記憶となっていった。</p>		<p>地方や離島・へき地等において、子ども向けの定期的なワークショップや公演企画などを行っていく。また、都内の学生と与論島劇団「野生の島人」や徳之島劇団「海と大地」との交流事業を行い、学生が普段、訪れることのない地域において自己を開放し、表現するような芸術プログラムと、島劇団のメンバーと一緒に創作を行いながら作品を発表するプログラムを開設していきたい。</p> <p>5年間の事業の中で創作した島劇団との作品の中で、オリジナリティ溢れる音楽の魅力を発信していく事業を行う。収録、ならびにライブ形式で発表し、島の魅力を国内外にも発信していく。</p>	
4 新型コロナウイルス感染症による影響と取組について			
(1) 影響	(2) 中止・延期をせず、事業実施するための努力	(3) コロナ拡大の影響を通して得たもの、知見	(4) 今後、同様の感染症拡大が起こったことを見据えた取組
<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発出により、リアルでの公演やワークショップの開催が困難となった。</p>	<p>リアルなワークショップの代わりにオンラインでのレクチャーやシンポジウムを開催。現地での公演活動が行えなかった地域に対しては、録画映像をオンラインにて配信上映し、上映後にオンラインで意見交換などを行った。</p>	<p>オンラインでの事業の導入によって、弊社と各地のつながりだけでなく、地域同士の横のつながりが生まれた。</p>	<p>今後も同様に感染症が拡大した場合でも事業が実施できるようリアルとオンライン配信のハイブリット公演を実施。</p>
5 1～4以外に、貴団体において周知したいこと 等			
<p>いわゆる舞台芸術が盛んに行われていない地域での5年間の活動では、公演やワークショップを通して、各地域の参加者が新しい感動に出会い、心身の解放、自己表現を通じた歓びに目覚めていく様子を目の当たりにした。そして、同時に、私たち自身も、各地域に宿る固有の文化、音楽、その土地の人が大事にしている哲学や知恵を学ぶことができた。自身のルーツ、オリジナリティを尊ぶ姿勢は、都会で忙しく生きている私たちに芸術とは何かと問いかけているようだった。強い文化が根付いて土地には、唯一無二の舞台芸術作品が誕生すると感じている。その作品が誕生するまで、引き続き交流を続けていければと思っている。</p>			
感想・評判			